



大樹のこころ

授業の充実

大樹寺小学校は岡崎市教育委員会より研究委嘱を受けており、平成7年度に研究発表会を予定しています。委嘱内容は「全ての子供たちの可能性を引き出す学び合い」です。本校では、全ての子供たちを「学びの主人公」にしたいと考え、全員が参加し活躍できる授業を目指しています。

その研究推進において、豊田市の元校長・前田勝洋先生の理論を根幹としています。前田先生は多くの書物を出版され、三河の教育界では「授業の神様」として知られる存在です。その前田先生が2月7日(水)に来校され、3の1と6の1の授業を参観してくださいました。

3の1と6の1では国語科の授業が行われました。本校の国語の授業スタイルは、本文から子供が「心に残ったこと」を見つけ、それをクラス全員で出し合い共有していくものです。この出し合いの時に、「全員が参加し活躍する授業」にできるかがポイント。本校では「どうして主人公は〇〇をしたのでしょうか」といった正解を求める問いではなく、「自分は思うか」と子供たちに尋ねていきます。「どう思うのか」は自由であり正解がありません。正解を求められると自信がもてずに、授業に参加できなくなる子もいますが、「自分の思い」ならば述べることができます。また、その子なりの発想や感性が活かされ、優等生的な考えでなくても、学習を活性化することにもなります。思わぬ子の感性豊かな発言が、教室に波紋を投げかけることもあります。まさに全員が参加し活躍する授業。全ての子供たちが学びの主人公になれるのです。

両学級とも子供たちの自由で柔軟な発言が飛び交い、全員発言が達成されていきました。しかし「自分の思い」を述べているだけでは「学び」にはなりません。子供たちが意見を出した後に、考えを深める問いをする必要が出てきます。ここが授業の勝負所で、本校では「頑張りポイント」と呼んでいます。この場面で、前田先生が担任の先生に代わって「こうした意見があるけど、どう思う?」「〇〇さんが△△と発言したけど、このことについてみんなで考えてみようか」と子供たちに問いかけていきました。こうした問いによって、3の1・6の1ともに子供たちの思考のギアが一気に上がっていきました。さすがの教師の出といったところです。参観していた先生方にとって、大きな刺激となりました。

授業後に前田先生から「子供が穏やかな雰囲気である」「授業に参加することが当たり前になっている」「先生の表情が良い」といったお褒めの言葉をいただきました。この言葉に本校の先生方は大変勇気づけられました。前田先生は、現在新刊本を執筆中です。その本には大樹寺小の先生や授業の様子が記載される予定です。今から発売日が待ち遠しいです。



【能登半島地震募金】

募金総額は17万7482円です。日本赤十字社に送らせていただきました。ご協力ありがとうございました。